

別記様式第1号（第5条関係）

総合計画審議会 会議経過要旨

会 議 名	第2回木津川市総合計画審議会		
日 時	令和5年9月7日（木） 午前10時00分～午後0時05分まで	場 所	本庁舎4階 4-4会議室
出 席 者	委 員	（公募委員） ■笠井 隆司委員、■中村 裕彦委員、■柳澤 充子委員 （識見委員） ■今里 佳奈子委員、■真山 達志委員 （委員） ■石塚 修二委員、■河合 智明委員、■小松 信夫委員、 ■坂本 利正委員、■中崎 鉄也委員、□松永 弘道委員、 □松本 耕考委員、■森川 泰行委員、■森田 千晶委員、 ■渡邊 かおる委員	
	■：出席 □：欠席		
	その他出席者	株式会社地域未来研究所 田淵氏、貞松氏	
庶 務 （事務局）	茅早マチオモイ部長、西村学研企画課長、 松下主幹、吉田課長補佐兼係長		
議 題	1. 開会 2. 議事 （1）報告事項 前回（第1回）木津川市総合計画審議会について （2）確認事項 ①まちづくりに関する市民・中学生アンケート調査結果について ②第2次木津川市総合計画前期基本計画の施策評価と課題 （3）協議事項 ①第2次木津川市総合計画後期基本計画の構成 ②第2次木津川市総合計画後期基本計画の課題・方針・施策体系（案） （4）その他 今後のスケジュール 3. 閉会		
会議結果要旨	1. 開会 事務局から開会を宣言した。 2. 議事 （1）報告事項 前回（第1回）木津川市総合計画審議会について 資料1に基づき、事務局から前回審議会の結果について説明し、確認した。		

	<p>また、内規第5条第2項の規程により、今回の審議会の会議経過書の署名委員に笠井委員を指名した。</p> <p>(2) 確認事項</p> <p>①まちづくりに関する市民・中学生アンケート調査結果について 資料2-1、資料2-2に基づき、事務局から、まちづくりに関するアンケート調査結果について説明し、確認した。</p> <p>②第2次木津川市総合計画前期基本計画の施策評価と課題 資料3、資料3-参考に基づき、事務局から、第2次木津川市総合計画前期基本計画の施策評価と課題について説明し、確認した。</p> <p>(3) 審議事項</p> <p>①第2次木津川市総合計画後期基本計画の構成 資料4、資料4-1に基づき、事務局から、後期基本計画の構成について説明し、案のとおり進めていくこととした。</p> <p>②第2次木津川市総合計画後期基本計画の課題・方針・施策体系(案) 資料5-1、資料5-2に基づき、事務局から、後期基本計画の課題・方針・政策体系(案)について説明し、案のとおり進めていくこととした。</p> <p>(4) その他 今後のスケジュール 資料6に基づき、事務局から、今後のスケジュールについて説明を行った。第3回審議会は、令和5年10月の開催とし、日程が決まり次第連絡を行う。</p> <p>3. 閉会 事務局から閉会を宣言した。</p>
<p>会議経過要旨</p> <p>◎会長</p> <p>○委員</p> <p>●事務局</p>	<p>1. 開会 会議結果要旨のとおり。</p> <p>2. 議事</p> <p>(1) 報告事項 前回(第1回)木津川市総合計画審議会について 会議結果要旨のとおり。</p> <p>(2) 確認事項</p>

①まちづくりに関する市民・中学生アンケート調査結果について
事務局より、まちづくりに関する市民・中学生アンケート調査結果について、説明を行った。

なお、主な意見・質疑は次のとおり。

○アンケート結果について、地域差は出ていたか。

●住みよさは学研地域で高い傾向があった。加茂地域や山城地域は、住みよさや交通の便で低い傾向が見られた。

○アンケート回収率が低い、低さの分析、上げるための取組や工夫はあるか。

●回収率は、前回 37.4%、今回 28.1%で 9.1%減少した。近隣市でも総合計画のアンケートの回収率は減少であったため、同様の傾向であった。必要数 1,067 件としており、信頼度の要件は満たしている。

回収率を上げる取組として、今回 Web 回答を導入した。これまで 50 代以上は高かったが 20~40 代の方々に多くご回答いただいた。調査期間を 4 日延長する対応も行った。

地域コミュニティの希薄化もあり、行政全般への関心が薄らいでいるのではと分析している。今後も回収率を上げる手立については研究していく。

○アンケート結果については、木津地域と加茂地域、山城地域で異なるだろう。地域別のアンケート結果を分析する必要がある。

●今後、後期基本計画の取組について、各施策の文言を整理する予定である。その際に、地域別のアンケート結果や自由記述の取りまとめを行い、それに対する施策を盛り込めるよう各担当課と調整していく。

②第 2 次木津川市総合計画前期基本計画の施策評価と課題

事務局より、第 2 次木津川市総合計画前期基本計画の施策評価と課題について、説明を行った。

なお、主な意見・質疑は次のとおり。

○前期評価と今後の方向性については、アンケート結果とすり合わせを行っていくか。

●担当課には、アンケート結果の単純集計を提供している。今回の協議事項で後期基本計画の体系を決めるが、その下の各取組について

は、前期計画の取組や社会情勢、アンケートの結果を踏まえた上で施策を考えていく。今後の作業の中で、反映していく。

○市長が替わった。新市長の市政方針を打ち出して、実現させていくような内容を審議会でも議論していく必要があるのではないか。

●今回は第2次総合計画の後期基本計画である。大きな方向性、基本構想は10年のまちづくりを示している。所信表明の中で打ち出している内容は、各取組の中で色合いを出していきたい。

○前期施策の評価はBが多い。Bは「実施していない取組もあるが、十分な成果もある」とある。Bになった部分についてはどのような見直しを進めるのか。

●各施策には事業が複数あり、優先順位がある。1つの取組に対して、1つの評価ではなく、全体として、優先順位や予算の状況も踏まえて、よりわかりやすい評価にしていく。

○Bの実施していない事業があれば、優先順位が低かったのではないかと、または実施しなくとも効果があったと評価できる場合もある。後期計画に向けてそのあたりの精査が必要である。

◎前期計画の評価を踏まえて、後期基本計画に反映することが基本になる。評価については、これで終わりではなく、後期計画の課題、方針の検討において評価を踏まえて議論していきたい。

(3) 協議事項

①第2次木津川市総合計画後期基本計画の構成

事務局より、第2次木津川市総合計画後期基本計画の構成や、木津川市将来人口推計（暫定値）について説明を行った。

なお、主な意見・質疑は次のとおり。

○将来人口推計は、2020年は実績値があるのではないかと。

●2020年の78,724人の数値は、2020年9月末の外国人の方も含めた住民基本台帳の実績値である。2022年9月に8万人は超えているが、5年間隔であるため、直線で結んでいる。

○グラフの3線の凡例をグラフの順と合うよう順番を変えてほしい。

●グラフの凡例の順番を変更する。

②第2次木津川市総合計画後期基本計画の課題・方針・施策体系（案）

事務局より、第2次木津川市総合計画後期基本計画の課題・方針・施

策体系（案）について説明を行った。

なお、主な意見・質疑は次のとおり。

○教育の分野については、こどもの教育が記述されているが、その他の世代の教育については、各施策の中に溶け込むイメージか。

●生涯学習については、施策分野5の文化に「生涯学習」があり、その中で取組を記述する。

○関西文化学術研究都市については、過去に内閣府のスーパーシティ構想に手を挙げている。大阪市とつくば市が採択されているが、そういった構想に応募できるという街である。市民の方々にも知らせていく必要がある。学研都市区域には知的労働者も多い、そういった方々も活躍できれば良い。

また、健康をテーマにした企業も多い。市民とのコミュニケーションもできれば良い。前期基本計画の期間にはなかった。後期基本計画には載せる必要がある。

また、空き家は耐震性がないことや改修できない問題もあるが、活用できる補助金はある。補助金対策を行えば、空き家の数が減り、木津川市に人が戻ってくる。

情報発信について、市役所庁舎には目的がないと人は来ない。来る目的がある施設に広報をしても効果が薄い。不特定の方々がくる施設に情報発信することが大切である。

最後に、本市は、スマート化宣言を実践している。その内容を入れてはどうか。

●学研都市の取組は、本市ならではの強みである。具体的な施策の中で反映できていないものについては、反映していく。

○学研都市の代表委員で参画している。スーパーシティの話があった。情報通信の分野は、ATRやNICTが立地しており、学研都市の強みの1つである。今はスマートけいはんなで、デマンドバスや宅配の実証実験をしている。国がスーパーシティの構想を打ち出したので、京都府が主体となって応募した経過がある。デジタルで世の中を最適に、市民の方々が安心して、快適に過ごせる社会の実現を目指すものである。

岸田政権下では、デジタル田園都市国家構想というあたらしい構想を打ち出した。その構想に基づいて、各自治体が取組を実施していく。学研都市の強みであるスマートシティを活かしていく。

スーパーシティは古い印象である。木津川市でもデジタル田園都市国家構想を踏まえた計画を策定すると聞いている。その部分で盛り

込んでいけば良いのではと考える。

◎デジタル田園都市国家構想と総合計画の一本化は今後の構想に入っている。

●今後は一本化を目指し、計画時期を合わせ、次期に向けての素地を作っていく。

◎総合計画が上位になる。スーパーシティ構想は、国家戦略特区の名前替のような印象である。具体的な内容をどう展開するかは意見が分かれている。都市に対する常識を変える発想で、都市を再構築していく取組である。

それを木津川市にどこまで取り込んでいくか、趣旨や意欲をどう盛り込んでいくかを検討して、反映していければ良い。

○学研都市には、デジタル化の強みがある。2040年に高齢者が増える。地域福祉の専門として活動しているが、70代の方が多い。人の力で見守ることや労働者の減少もあり、人が支えるのは限界がくる。今後AIの活用や、自分の家で過ごす取組が必要になってくる。いつまでも暮らせる家の中にAIを導入し、見守りをロボットにしてもらう時代がやってくる。

学研都市の強みを活かし、暮らしやすいまちにできれば良い。皆様の意見を伺いながら、地域福祉の計画を立てていきたい。

◎人的資源の活用は、重要な局面にきている。将来的には介護の現場がロボットに置き換わる時代が来るだろうが、すぐではない。心理的な抵抗もある。人材確保や育成、労働環境の整備が必要である。もちろん、AIを使えるところは使っていくことが重要である。その点では、木津川市単独ではなく、国も含めた総力が必要であるが、木津川市には学研都市の知的資源もある。市として新しい方向性を打ち出していくことが、市民のシビックプライドにもつながる。

○福祉の中で、障がい者の高齢化がある。重層的支援について、「高齢者福祉」と「障がい者福祉」の間に新しい項目を入れることはできないか。

●重層的支援の取組は、庁内でも組織の縦割りをなくして取り組んでいく事項である。総合計画では、そういった視点は必要であると認識している。

◎前期基本計画の項目を基本的に踏襲するので、項目の入れ替えや組み換えは難しいが、今のご指摘は、旧来の枠組みでは対応できない課題もでてきていることに関わるものである。「重層的な取組」が必要であるなどの文言を、前段の説明文に入れるなどで整理できる

	<p>であろう。</p> <p>(4) その他 今後のスケジュール 会議結果要旨のとおり。</p> <p>3. 閉会 会議結果要旨のとおり。</p>
そ の 他 特 記 事 項	